東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部

広報TSB

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

第21号
令和4年度 前期

「短冊に願いを込めて」

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部
学長　佐藤 一郎

本年度の入学式は、新型コロナウイルス禍により、保護者の皆さんの御参列はかないませんでしたが、規模を縮小し、時間を短縮して、大学、短期大学部合同で挙行されました。その後、高止まりの状態で、なかなか減少しません。家庭内感染が疑われる場合があり、濃厚接触者の認定を受けたり、PCR検査で感染が判明してしまう場合もあり、自宅待機せざるを得ない学生も少ないがおります。

学生が校舎に入る際には、手指消毒、体温測定を励行し、教室使用時には、三密を避け、空気の入れ替えなどにつとめています。その結果、本学ではクラスターはおこらず、順調に各授業、実習が進行しております。

本学における学生生活は、毎日学業に励むのはあたりまえですが、学友会活動、クラブ活動などを通しての学生間交流もやっと盛んになってきました。

コロナ禍により、これまでの二年間は学友会活動が規制されてきましたが、六月に、クラブハウスの各部室の清掃が一斉に行われ、それぞれ鍵も新たに設置されて、管理も行き届くようになりました。最近、ときおり近くを通ると、「フォークロッククラブ」の演奏が流れています。

六月十一日は、体育館で「体育祭」が開催され、二年間のブランクがあったにもかかわらず、大変盛り上がりました。わたくしも、「体育祭」の成功を祈って、「フレー、フレー、(東北)生(せい)(活)文(ぶん)(化大学)」と大声で、エールをきり、応援しました。秋にもう一回、「体育祭」が開催できないものかと検討されていると、聞いております。

六月後半から、大学生協売店入口に、織姫と彦星が出会う七夕祭りなのでしょう、二本、笹竹が飾られています。本来、詩歌や願い事を書き、学業の上達を願うのでしょうが、毎日少しづつさまざまな短冊が増えています。

「笑顔の多い人生でありますように！」「世界中の人間が皆同じくらい幸せになりますように！」「世界平和たのむ」「持続可能な社会になりますように」のような真面目なものもありますが、推しのアイドルや、恋愛成就、現世利益の願望をしたためたものも多く、微笑ましく眺めています。また、生老病死の四苦から救われたいとする願いもありました。

学長も短冊をと、学生にすすめられ、それではと、「万葉集」から、男女の契りを願う相聞歌のひとつ「君が代もわが代も知るや磐代(いわしろ)の岡の草根(くさね)をいざ結びてな」を記して、短冊を笹竹に結びました。

大学家政学科 短信

令和四年度春・夏の家政学科の近況をお知らせします。

まず教員の異動についてですが、昨年度末で健康栄養学専攻の曽根正彦教授、半澤真喜子講師が退職された一方で、四月より、服飾文化専攻に何水蘭講師、菊地紗代講師が、健康栄養学専攻に鴫原美智子准教授が着任されました。

今年度の家政学科の新入生は、服飾文化専攻十四名、健康栄養学専攻四十四名、および編入学生（健康栄養学専攻三年）二名と学科定員を充足できました。このところ男子の新入学生が増加傾向ですが、今年も服飾文化専攻三名、健康栄養学専攻十一名と約四分の一が男子学生です。

一昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響はありますが、今年度は教室の「密」を回避しつつ対面授業が全面的に実施され、体育祭も復活するなど、これまでのところ、ほぼ平年並みに授業や行事を進めることができています。教育実習や管理栄養士養成課程の臨地実習もほぼ予定通りに進められていますが、一部で特例的なリモート実習の実施といった対応もあります。また、研修旅行など大勢での校外行事については市中の感染状況を見ながら慎重に計画が進められているところです。

オープンキャンパスも対面型の実施が再開され、今年度（七月末日現在）は既に二回開催されましたが、参加者が増え、特に健康栄養学専攻への関心の高まりが感じられます。

サークル活動も少しずつ再開され、服飾文化専攻学生を中心とするファッションショー学生実行委員会は、学生数も増えたことで勢いを取り戻しつつあり、例年通りの大学祭時の公演実施を目指して、鋭意準備に取り組んでいます。

健康栄養学専攻学生の対外的な活動も徐々に活発化しており、六月には泉区家庭健康課の連携事業として「食育月間パネル展」が開催され、昨年度の四年生が作成した食育に関するパネル・資料が展示・配布されました。管理栄養士国家試験の合格率も回復傾向が出てきて、昨年度からの正課の支援以外に教員が開講する「塾」と称する勉強会も活発に開催されています。

このところまた新型コロナウイルス感染症の拡大傾向があり、四年生たちは引き続き制約の多い状況下で学外実習や就職活動を余儀なくされていますが、これらを乗り越えて一層の成長を遂げてくれるよう、教職員一同全力で支援する所存です。

大学美術表現学科 短信

美術学部は、学部になって四年目を迎えました。さらなるステップアップを目指して、昨年度に伊勢周平先生（総合メディア分野）を、今年度から山沢智樹先生（教職分野）を迎えてスタートを切っております。

新入生は四月から九十分授業の講義、百八十分の実技と今までに経験のない時間数を体験し、慣れない通学ルートに困惑しながら新たな大学生活をはじめました。

二年生は、経験を生かし大学の履修登録も積極的に済ませていることと思います。

三年生は、個人の自主的な制作や課外活動、作品の出品やグループ展、個展等、展覧会開催のための意欲を燃やしているところでしょう。

四年生は、就職活動、教育実習、卒業研究と重なる行事を上手くこなして頑張っています。特に教育実習では、今まで学んだことを実際の中・高生の前で授業を行うという緊張感の中で、充実した体験をしたと思われます。

学事予定では、これから試験、レポート、課題提出があり、また、集中講義、特別講義を経て、夏休みをはさんで後期授業がスタートします。十月になると、大学祭が開催されます。同時開催の美術学部によるコンクール（学科内コンクール）で学生たちは作品を競うことになります。最終学年では、引き続き就職活動、卒業研究に取り組み、最後の作品成果発表「卒業制作展」（会場…宮城県美術館）に向けて研究・制作を行っていきます。

さて、美術を広く捉えて中を見てみますと、分野や方向性が見られます。絵画や彫刻といった「美術」。陶芸

や染織といった「工芸」。ビジュアルデザインやプロダクトデザインといった「デザイン」。マンガ・アニメや映像といった「メディア芸術」。はっきり線引きすることは出来ませんが広く傾向や方向性が見られます。

美術の多様な方面を学ぶことで、伝統や様式について考えざるを得ない場面に遭遇したり、社会や環境との関わりを注視するような気付きや学びを体験したりします。そうはいっても一番の関心は、人を歓ばせることの追究だと思います。その方向が自分の進む世界、仕事として自分と結びついてきます。

たとえ作品制作ではなくとも自分を生かせる仕事というのは、自分の「表現」だと言えるでしょう。

どの方向に興味があり、力を発揮できるか、また自分の売りは何なのか、学生時代に自分と真剣に向き合って答えを出して欲しいと思います。

短大生活文化学科 短信

生活文化学科は、令和四年三月十五日に食物栄養学専攻二十四名、子ども生活専攻四十名の卒業生を送り出しました。食物栄養学専攻では平成二十六年度から八年連続、子ども生活専攻は平成二十年度から十四年間連続して就職率一〇〇%を達成しています。

令和四年四月、食物栄養学専攻に二十四名、子ども生活専攻に三十一名が入学し、続いて新入生学科オリエンテーションが行われました。依然、新型コロナ感染症の流行はおさまりませんが、各種行事は少しずつ正常化しつつあります。

専攻別に見ますと、食物栄養学専攻二年生の実習が、六月から十二月のうちの所定の一週間で行われます。八月二十五日にはフードエンタテイメント演習として、株式会社江陽グランドホテルにて見学およびテーブルマナー講座を行う予定です。また、栄養士実力認定試験（十二月）対策としての特別演習を時間割の中に組み込みスタートさせました。

子ども生活専攻二年生の実習は、五月二十三日から六月四日まで、六月二十日から七月二日まで、それぞれ保育所実習Ⅰ、Ⅱを行い、七月十九日から八月一日まで施設実習を行いました。ただし、新型コロナの流行のため、一部の学生は実習期間を変更しました。子ども生活専攻の卒業生を対象としたホームカミングデーが六月二十六日に行われ、新しい職場について情報交換を行うことができました。久しぶりの行事として、体育祭が六月十一日に行われ、主に子ども生活専攻の一年生が活躍しました。

学生の学びに関するトピックをご紹介します。食物栄養学専攻では、フレスコ株式会社との連携協定を昨年に続き結び、五月二十六日にその締結式を開きました。その後、食物栄養学専攻二年生が提案したお弁当の審査会が七月十九日に行われ、現在、商品販売を目指しています。また、今年度のオープンキャンパスでは株式会社カルラとの共同開発による「おからのおやつ」を配布しています。さらなる新商品の開発を進めていますので、乞うご期待です。子ども生活専攻では、日本教育カウンセラー協会が認定する資格「ピアヘルパー」の取得が今年度から始まります。十二月に行われる試験の合格へ向け、七月からピアヘルパー対策講座が開始しました。学年を超え、多くの学生が受講しています。

東北生活文化大学短期大学部 クラスだより

（令和四年度 前期）

大学服飾文化専攻 1年

服飾文化専攻一年生は十四名で、このうち男子が三名です。全員、衣料管理士二級の取得を目指しています。また、家庭科の教員免許、学芸員の資格を希望している学生がそれぞれ数名います。

皆、優しく協調的で良いクラスです。六月や七月に体調を崩した学生が何人かいましたが、現在では、全員が元気に授業を受けています。今後、前期の試験やレポート提出があります。全員が無事、乗り越えてくれると信じています。

大学服飾文化専攻 2年

いよいよ二年生となり、専門科目の学習が本格的に始まりました。全体的には授業への取り組み方も良く、まずは元気に大学生活を送っています。

しかしながら、この原稿を執筆している今、宮城県では新型コロナウイルス感染症の患者が初めて二千人を上回り、これまでに経験したことのない、爆発的な感染状況が続いており、研修旅行の延期を判断するに至りました。

このような試練のときではありますが、対面とオンライン双方から、勉学をはじめ、有意義な学生生活を過ごせるよう、学生一人ひとりを支えていく所存です。一日も早い新型コロナウイルス感染症の収束、皆様のご健康をお祈り申し上げます。

大学服飾文化専攻 3年

おかげさまで十八名全員が三年次に進級することができました。今後は卒業に向けて、気を引き締めて取り組むよう注意喚起してまいります。四月の面談時に「今年度中に卒業必修の一二四単位に限りなく近い単位取得」を目標とするよう指導しています。服飾文化専攻での学びの集大成「専門研究」もスタートしました。健康を大切にしながら学びを深められるよう、保護者の皆様からも、温かいお声がけをお願いいたします。

大学服飾文化専攻 4年

大学四年間の最終学年。この原稿を執筆している七月初旬から月日を数えると、三月十五日の卒業式まで約八カ月になりました。最近のクラスの様子ですが、就職が早い段階で決まった学生、就職活動真っ最中の学生、進路に迷い悩んでいる学生など、この時期独特の空気が流れています。特に今は、目の前のことに一喜一憂しないことが大切であると思いますので、個人面談ではこのことも含めて、種々アドバイスをしているところです。少しせっかちかもしれませんが、全員の笑顔に囲まれながら卒業式を迎えたいと思う今日この頃です。

大学健康栄養学専攻 1年

四月に新入生四十四名を迎えました。学生たちはガイダンス、オリエンテーション、履修登録などの学事をこなし、前期の授業に取り組んでいます。四月中旬から実施した担任との個人面談では、生活面や健康面の確認、授業で分からない点は放置しないこと等の指導を行いました。梅雨明けの頃から暑い日が多くなっておりますが、体調管理に気を配り、前期試験、夏休みを迎えてほしいと思います。

大学健康栄養学専攻 2年

六月の後援会総会にご参加いただき御礼申し上げます。

全員が無事二年生となり、三年振りの体育祭では男女混合でバスケットボールに出場、接戦の末、教員チームに勝利するなど会場を大いに盛り上げてくれました。全員と個人面談を行ったところ、学習面では専門科目も増えて苦慮する場面もあるようですが、一年生の時と同じ勉強時間では足りないと意識している学生が多かったようです。今後も引き続き見守っていきたいと思います。

大学健康栄養学専攻 3年

四月に編入生二名を迎えスタートした三年次も、早いもので前期を終えようとしています。六月からは給食管理の臨地実習も始まり、学生同士が相談し合い、事前準備や終了後のまとめに励んでいる姿は微笑ましく思います。また、管理栄養士の国家試験対策講座も始まるなど、将来を見据えた科目も加わりました。各自の進路を模索しながら学生同士が切磋琢磨し、充実した大学生活を送ることができるようサポートしていきたいと思います。

大学健康栄養学専攻 4年

六月からは管理栄養士国家試験受験資格のための臨地実習、その合間をぬっての就職活動や課題研究など、更に充実した毎日です。来年二月末頃の受験に向けた学習も、毎月の模擬試験とともに本格化しています。既に就職先から内定を頂いた学生、内定後も模索する学生、職

種により今後が活動本番のため、今の内にできる限りの受験勉強をする学生等々、状況は様々です。いずれも夏休み以降の貴重な時間を有効活用できるよう支援してまいります。

大学美術表現学科　1年

今年度も「絵を描くのが好き」「アニメが好き」「デザインを学びたい」「工芸品を作ってみたい」そんな志を持った学生たちが入学してまいりました。毎年五月に行う東京研修は、残念ながらコロナ感染症蔓延防止のため行けませんでした。しかし六月の体育祭ではクラスの有志が種目別の競技に出場し、健闘しました。七月は東北大学で開催されたサイエンスデイへ髙田葉月さん、松山凜さん、高橋幸聖さん、持舘ちひろさんが出展し活躍しました。

大学美術表現学科　2年

昨年度まではコロナの影響により様々な大学生活に制約のある年でしたが、学生なりに考え工夫を凝らし、今できる事にチャレンジしている姿が見られるようになりました。外へ向けて制作発表する者、学友会活動の参加、サークル活動での友人との時間を過ごすなど、少しずつではありますが本来の大学生活が戻ってきている様子に嬉しく思います。

授業では既に卒業研究を見据えて次年度からの専門コースへ向け、後期に備えております。

大学美術表現学科　3年

「大学生活＝モラトリアム」と言う嘗ての常識が非常識となって、どれ程、経ったのでしょう。進級という縛りから解放され学生らしい自由を手にするや否や、その「モラトリアム」も既に残り少ないことを学生たちの多くが未だ知らずにいます。卒研に向けて自己研鑽に励むべき三年次後期は、就活のスタートダッシュの時期でもあります。取得単位数も百以上を目標としなければなりません。現実から逃れられない現実が迫りつつあります。

大学美術表現学科　4年

四年次前期は、卒業制作展に向けて制作がスタートしました。四年間の集大成として各自が制作計画を立て、日々制作に取り組んでいます。同時に、卒業後の進路について考える時期となりました。初めての就職活動は戸惑うこともあると思いますが、就職の第一歩はまず行動に移すことです。あっという間に半年が過ぎていきますので、残りの大学生活を有意義に過ごしてほしいと思います。

短大食物栄養学専攻　1年

四月に入学式が行われてから早くも前期授業期間の終盤を迎える現在、皆日々懸命に授業に取り組んでいます。昨年まで中止が続いた学内行事も徐々に開催されつつあり、新しい体験に戸惑いつつも、楽しんでいる様子です。学生たちは例年に増して授業に取り組む姿勢が積極的で、授業の後や実験・実習中の質問も多く、前向きな姿勢が感じ取れます。この調子で二年間の短い学生生活を謳歌して欲しいと願っています。

短大食物栄養学専攻　2年

二年次になると一年次よりさらに専門的で実践的な科目が増え、各自が将来の夢に向かって頑張って取り組んでいます。また、慣れない就職活動に不安を感じながらも、会社説明会や面接に参加し、活動を進めています。短大で過ごした約一年半の間に、いろいろなことを経験し学ぶ中で、戸惑いながらも懸命に努力し日々成長している姿を間近に見て微笑ましく、そして頼もしく思っています。

残りの学生生活も、クラスの仲間とともに楽しみながら有意義でかけがえのない時間を過ごして欲しいと心から願っています。

短大子ども生活専攻　1年

入学当初の一年生三十一名は、これから始まる短大生活に緊張しており、自己紹介ではクラスの大半が「人見知りです。」と、話していました。七月の今では、保育者を目指す同志としての絆も生まれ、体育祭での有志参加や、ダンスの創作活動等、積極的に仲間と協力する姿が見られるようになりました。

今年は、施設見学も終え、九月には附属幼稚園での基礎実習も行う予定です。二年間、夢に向かって皆で頑張りましょう！

短大子ども生活専攻　2年

二年間の短大生活の中でも十週間に及ぶ実習期間は、短大での学びと実践を繋ぐ山場です。昨年度、附属のますみ幼稚園での基礎実習を設定し準備をしてきましたが、二回ともコロナ感染状況を鑑み断念せざるをえませんでした。そんな二年生は、今、初めての保育所実習・施設実習を迎えています。少し解放された夏休みを実感できるのは、この後の補講や試験がすべて終わってから、二年生の暑い暑い夏はまだまだ続きます。それでも、「めっちゃ可愛かったあ」と笑顔で報告してくれています。

私の研究 -研究紹介-

大学　健康栄養学専攻　教授
小野　真実
【専門分野】栄養教育、ヘルスプロモーション
【主な担当科目】栄養教育論、栄養指導論、栄養指導論実習、栄養情報処理演習、食生活論

私の研究分野は「行動科学を活用した栄養教育・栄養カウンセリング」です。思えば学部卒業後の修士課程進学の際、望ましい食生活の営みにも通ずる〝保健行動〟には本人の個人的要因（知識・態度など）はもちろん、その人を取り巻く家族から広域レベルにわたり、どのような環境要因が影響するのかを知りたいと思ったのが契機でした。修了後は、都内某情報通信系企業人事部における健康管理業務（対象数約七万人）に長く管理栄養士として携わりました。年間約四百件の個別と、約四十回の集団（十～二百名程度）への栄養（健康）教育を中心に、産業保健における疫学研究や健康増進活動の関連業務に従事しました。中でも注力したのは企業特性を生かしたＩＣＴヘルスケアツールの開発で、望ましい行動変容を狙った本ツールの活用は、利用社員の生活習慣と検査値の改善に一定の効果を得ました。これらの経験は、現在四十歳以上の国民に実施されるメタボ健診・保健指導制度の立ち上げ時にも、ノウハウ提供や全国的な保健指導スタッフ育成面で、微力ながらも研究協力者として貢献させていただきました。一方、北東北の某地域高齢者を中心とした健康増進活動においても栄養疫学研究を行ってきました。

本学の学生さんには、これまで様々な健康度と多様な価値観の方々に接した経験を基に、「個人の多様性の理解力」と「栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力」とを育めるよう、尽力したいと考えます。

大学　美術表現学科　講師
伊勢　周平
【専門分野】絵画、現代美術
【主な担当科目】絵画基礎Ⅰ・Ⅱ、メディア芸術論、アニメ・ゲームⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、版画Ⅰ・Ⅱ、地域創生演習Ⅰ・Ⅱ、デザイン基礎Ⅰ（映像）、卒業研究Ⅰ・Ⅱ

二〇〇一年、故郷の山形美術館でルドンの巡回展が催されました。彼の仕事が収められた古い画集（母が学生時分に知人から頂いたものでした）を小さい頃から舐め回すように見ていたので、「これ」が来るのかと勇んで美術館に足を運びました。しかし現場で感じたのは「これ」でもあり、また「死んだ人のビジョンが現前しながら、時代の最突端にいる自分を眼差している」ような感覚でした。とにかく凄いものを見た興奮で帰りがけにパステルという画材を買って、画家になった自分を夢想したことを覚えています。

ふつう「絵」という場合、大抵は〈ピクトリアル〉、つまり「視覚的な画像としての絵」を指すと思います。私が画集から感じたものはこれに近いものだったでしょう。

しかし私が現場で感じたものは、絵の〈イメージ〉と呼べるものでした。絵から発せられたイメージが自分を通して刷新され、また絵に還っていくようなビジョンです。またその過程で折り畳まれていた精神の記憶が開き、連綿と続いていくような。

ジョージ・バークリーという哲学者が、ものを知覚するとき（それは視覚でも味覚でも）、色や味はもの自体にも感覚器自体にも無い　―どこに在るのか？―　ものと感覚が接触した時に在る、と言ったと思います。今回お話ししたことにつながりそうです。

自分を今まで突き動かしているあの感覚は一体何だったのか。そしてこういった場合の「絵」とは何なのか。それが私の研究と実践です。

短大　生活文化学科　講師
米川　純子
【専門分野】教育・保育相談、児童福祉、児童心理
【主な担当科目】子ども家庭福祉論、地域福祉論、教育・保育相談、子どもの家庭支援心理学、社会的養護

私は一人っ子です。幼い時から「一人っ子だからね」と周囲から許されてきた部分が多くあったように感じています。しかし、果たして本当に一人っ子＝わがままなのでしょうか？そうした反骨精神のようなものから、対人コミュニケーションに興味を持ち始めたのが私の研究の始まりです。

私は児童発達学が専門なので、ウィングの三つ組みという自閉症スペクトラム障害の三つの代表的な特徴について解説します。①社会性に関する困難②コミュニケーションに関する困難③想像力に関する困難があります。しかし、自分の思いが相手に上手く伝わらずに誤解をまねいたことがあるなどの経験なら、多少なりとも心当たりがあるのではないでしょうか？ここで問題なのが、この特徴が社会生活において支障が起こっているのかという視点です。

最近、学生の間でのトラブルで多いのは、ＳＮＳ問題です。ＩＴの推進により、「伝える力」「相手の気持ちを読み取る力」を複雑化させています。さらに、常に多くの情報を受け反応はするが、自ら発信する力が弱体しているように思えます。障害を抱えているからだけではなく、現代において対人コミュニケーションに悩みを抱える人は多いのではないでしょうか。そこで、現在「伝える」というテーマで研究をしています。

皆さんは最近、家族や友人、職場の人と本音で話せているでしょうか？コロナ禍での会話の制限もありますが、大事な人と、本音で語り合いたいものですね。

2021学内デザイン計画

美術学部二・三年生九名と教員一名による、学内を良くするためのプロジェクトです。令和二年度に導入されたレーザー加工機と造形演習工房の設備を使い、授業内では難しい本格的なものづくりに取り組みました。はじめに学内を回って問題点を見つけ出し、自分たちができる「問題解決のためのデザイン」の話し合いからスタートしました。デザインを何度もブラッシュアップし、レーザー加工機の操作、木材やアクリル板の加工技術を習得し、三月にようやく完成。二号館入口には色鮮やかな校舎の案内板、図書館の一階には本の配置を示す案内板、五・六号館のトイレには遠くからでもわかるサイン、六号館食堂には動物や四季のデザインのパーティションが設置されました。

産学共同開発「おからのおやつ」

株式会社カルラと東北生活文化大学短期大学部が共同でおからを使ったお菓子を開発しました。原料のおからは、宮城県産大豆「ミヤギシロメ」を使用しています。カルラでは、自家製「カルラ豆腐」を生産していますが、副産物として"おから"ができます。この有効利用を目的として考案されたのが本商品です。おからは良質のタンパク質に富み、食物繊維や鉄分も豊富に含まれます。開発にあたっては、商品化のアイデア・製造・販売をカルラ、お菓子の内容については短期大学部、キャラクターのデザインは本大学美術学部が担当しました。ちょっと低脂肪、甘さひかえめで、おやつ、お茶受け、またビールのおつまみにも合うようです。カルラのオンラインショップで取り扱っています。

保健センターから

日本国内で新型コロナウイルス感染症が確認されてから二年半、未だ収束の兆しが見えず、七月に入り、感染者数が全国的に増加しています。本学でも、令和四年度（八月一日現在）は、感染者十八名、濃厚接触者四十二名の報告があり、昨年度より増加しています（令和二年度は感染者一名、濃厚接触者三名、令和三年度は感染者二十二名、濃厚接触者十九名）。これからも暑い日が続きますので、熱中症対策を優先にしつつ、より一層の体調管理に努め、基本的な感染対策の継続をお願いいたします。なお、感染者、濃厚接触者に認定された場合は、必ず保健センターに報告をお願いいたします。

人事異動

退職の教職員

大学 特任教授　曽根 正彦
大学 特任講師　半澤 真喜子
大学 講師　宮澤 孝子
短大 特任教授　宮地 洋子
短大 特任教授　横山 美喜子
短大 准教授　土屋 葉子
短大 講師　佐藤 和貴
大学 契約助手　玉上 かおり（四月三十日まで）
大学短大事務部 学生課長　岡部 正利

新任の教職員

大学 准教授　鳴原 美智子
大学 特任講師　菊地 紗代
大学 講師　何 水蘭
短大 特任教授　武田 早苗
短大 准教授　阿部 陽子
短大 准教授　橋浦 孝明
短大 講師　青柳 公大
大学短大事務部 入試課長・学募広報課長兼務　大石 正芳
大学短大事務部 学生課長　三浦 義雄

PHOTO ALBUM

（令和4年度 前期）

令和4年度入学式

4月4日（月）に入学式を挙行しました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のためにご参加いただけなかった保護者の方向けにオンデマンドでの配信を行いました。

新入生歓迎行事

4月5日（火）は新入生歓迎行事としてウェルカムパーティーとクラブ同好会紹介を行いました。ゲーム等を通して学生同士の交流を深める場となったようです。

施設見学実習

5月23日（月）に短大子ども生活専攻1年生が、児童養護施設「丘の家子どもホーム」の見学実習へ行ってきました。施設長先生よりすすめられ、学生が絵本「てぶくろ」と「おおきなかぶ」の読み聞かせをする場面も。

フレスコキクチ締結式

5月26日（木）にスーパーマーケットのフレスコ株式会社（フレスコキクチ）と短大は産学連携事業の協定を結びました。コロナ禍でも活動できる地域連携事業として昨年度始まり、今年で2年目となります。

令和4年度「後援会役員会・総会・学科専攻別懇談会・個別面談会」

昨年度、一昨年度と新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっておりましたが、6月4日（土）に3年ぶりの開催となりました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

体育祭

6月11日（土）に体育祭を開催しました。競技前に学長からの応援エールを受け、準備体操も万全!競技中の学生たちの生き生きとした姿が印象的でした。

夏のオープンキャンパス

6月18日（土）と7月17日（日）にオープンキャンパスを開催しました。たくさんの高校生が来場し、誘導から講座中のサポート、お見送りまで学生スタッフは大活躍でした!

服飾講座（ブログ）

大学服飾文化専攻ではブログで服飾講座を配信中です。（本学HPから見ることができます。）今年4月より何水蘭講師と菊地紗代特任講師が加わり、より魅力的な内容に!
https://www.mishima.ac.jp/tsb/category/fashion/

地域連携事業「子育て支援事業 いざあそび場へ!」

7月9日（土）に短大子ども生活専攻の橋浦孝明准教授と学生が、地域の親子への支援活動として本学体育館を開放し、あそび場を提供しました。

就職支援センターから

◎大きく変化する就職活動

就職活動は社会の変化に敏感に反応します。現代社会は、AI人工知能の人間領域への進出による社会経済構造の変化、コロナ禍でリモートワークの増加に伴う仕事環境の変化、持続可能な経済発展のためノーカーボン社会への変換など激しく変化しており、企業はこの様な変化に素早く対応出来る組織づくりをしています。組織は人次第です。そのため企業の人財獲得競争が激化しています。表向きは大学3年生及び短大1年生の3月1日から就職活動解禁となっていますが、実際は大学3年生及び短大1年生の夏のインターンシップから企業の採用選考活動がスタートしています。企業のインターンシップ募集要項を見ていると、7月中にエントリーシートやポートフォリオの提出が求められることが非常に多いのが現実です。そして、夏のインターンシップに参加した学生に9月くらいに内々定を出して人財の確保に努めています。さらに1～2年生の青田買いをするなど激しさは増す一方です。

この様な時代を生きる学生に伝えたいことは、入学時から頭の片隅に自分自身の将来を考えながら日々の勉強、サークル活動、アルバイト、遊びに打ち込んでくださいということです。そうすることで自分自身の将来が拓けてくると思います。

東北生活文化大学
東北生活文化大学短期大学部

このロゴマークは、本学の理念・目標を表現し、広く学内外にアピールするために、大学創立50周年を契機に作成し、平成22年4月1日に制定されました。東北生活文化大学・同短期大学部の英語表記の頭文字「TSB」をモチーフにし、人を結び繋ぐことがイメージされています。「広報TSB」も、保護者と大学とを結ぶ懸け橋となることを願って命名しました。

広報TSB 第21号
［ 発行 ］ 令和4年（2022年） 8月1日
東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部
〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地の2
TEL 022-272-7520　FAX 022-301-5602
ホームページ　https://www.mishima.ac.jp/tsb/
instagram　https://www.instagram.com/tsbkoho/
Twitter　https://twitter.com/mishima_tsb